

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 15 日現在

機関番号：35402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720160

研究課題名(和文) 19世紀後期アメリカ文学における子どもの教育

研究課題名(英文) Education for Children in Late Nineteenth Century American Literature

研究代表者

本岡 亜沙子 (MOTOOKA, Asako)

広島経済大学・経済学部・助教

研究者番号：70582576

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円、(間接経費) 540,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アメリカの女性作家ルイザ・メイ・オルコットの作品を中心に、19世紀後期のアメリカ小説に描かれた子どもと教育の関係を考察することを目的とする。ホレーズ・マンが公教育運動をすすめた1840年代以降、エリート層以外の子どもにも教育の門戸を広げようとしてきたアメリカ教育界の動向を、同時代の作家たちはどのように受け止め、あるいは問題意識を持ったのか、文学テキストと当時の歴史資料を相互参照しながら論考した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to explore the relationship between children and the existing educational systems surrounding them, depicted in late nineteenth century American literature. Beginning with the common school movement of Horace Mann in the 1840s, American educators have consistently worked for the gradual opening of educational opportunities to children not belonging to the upper-class family. This research aims to shed new light on late nineteenth century American novels as historical documents, which reflect the contemporary writers' reactions and perception of educational trends during those times.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：英文学 アメリカ 子ども 教育 ルイザ・メイ・オルコット

1. 研究開始当初の背景

フランス人歴史家フィリップ・アリエスが『子どもの〈誕生〉』を出版した1990年代以降、子ども研究に注目が集まった。それにもかかわらず、国内外を問わず子どもの教育という観点から19世紀後期アメリカ文学を分析した研究書はほぼ見当たらない。

この時期のアメリカでは、エリート層以外の子どもにも教育の機会を与える公教育運動に引き続き、子どもの教育制度や教育方針に大きな変化が起こった。とすれば、次に明らかにしたいことは、その教育改革を同時代の人々がどのように受け止め、あるいはどのような問題意識を持っていたのか、である。そこで本研究では、同時代のアメリカ文学に登場する子どもと彼らを取り巻く教育環境を、当時の教育制度を参照しながら考察することを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、アメリカの女性作家ルイザ・メイ・オルコット(1832-88)の作品を中心に、19世紀後期のアメリカ小説に描かれた子どもと彼らを取り巻く教育環境の関係を考察することを目的とする。ホレーズ・マン(1796-1856)による19世紀中葉の公教育運動以降、エリート層以外の子どもにも教育の門戸を広げようとしてきたアメリカ教育界の動向を、彼女はどのように受け止め、あるいは問題意識を持ったのか。

本研究の目的の二つ目は、本研究で重点を置く作家オルコットの教育観を追究することにある。というのも彼女は、著名な教育哲学者ブロンソン・オルコット(1799-1888)の娘であった。彼女は、1830年代、ホレーズ・マンの公教育運動より先立つこと20年、私塾に黒人少女を入学させるほど熱心な奴隷制廃止論者でもあった父親から、彼女はどのような影響を受けたのだろうか。興味深い

ことに彼女は10代の頃から貧民や女子、「黒人」などマイノリティー(社会的弱者)の教育に携わっていた。教育者且つ社会福祉活動家の一面がある彼女は、女子教育や「黒人」教育にまつわる作品を執筆することも多かった。これらの伝記的事実がありながらも、彼女の教育観は今まで批評の俎上に載ってこなかった。そこで、本研究ではオルコットとその周囲にいる父親ブロンソンやラルフ・ウォールド・エマソン(1803-85)、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー(1817-62)、マーガレット・フラー(1810-50)など超越主義者達の教育観との影響関係を、当時の様々な教育観や教育制度と照らし合わせながら考察することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、19世紀後期アメリカ文学における子どもの教育をテーマにしている。文学研究とアメリカ教育史研究の交差する包括的な研究であるため、オルコット関連の資料のみではなく、アメリカ教育史に関する一次・二次資料も蒐集し、双方の関連性を分析することが必要であった。前者に関しては、出版テキストだけでなく、書簡、日記、ノートなど作家の日常的な息づかいが伝わるテキストを蒐集するよう努めた。そのため、2012年と2013年に二度、オルコットの未発表の手記や書簡を所蔵するハーヴァード大学ホートン図書館やワイドナー図書館、オルコットの生地マサチューセッツ州コンコードにあるコンコード公共図書館やコンコード博物館、さらにオルコットの実家兼ミュージアムである「オーチャード・ハウス」へ研究用資料の収集に行った。

また、本研究期間中にオルコット家の書簡集が出版されるなど、オルコット研究を続ける上で必要な二次資料が徐々にあるが充実してきた。本研究でも、それらの資料を利

用しながら課題の究明に取り組んできた。

さらに2011年と2013年に海外発表をすることで、オルコット研究者との有意義な意見交換や情報交換をすることができた。

4. 研究成果

(1) 管理教育批判について

『若草物語』において描かれる家庭教育が近隣の学校で実践される画一的な管理教育と対照をなしていることに注目し、作品終盤でマーチ家の次女ジョーが経営を始める家庭的な学校にその折衷の一つの理想の形が認められることを指摘した。また、この管理教育批判がオルコット家の教育方針に重なることも、ブロンソンの教育思想を示す書籍や新聞・雑誌記事、さらにはオルコット家の書簡などから明らかにした。

(2) ジェンダー教育について

『若草物語』における家庭的教育施設の設立が、1860年代以降活発になった家庭内労働の社会化を目指す「物質的フェミニズム運動」に連動している点を明らかにした。またその学園で教えられる家事労働を組み入れた教育内容が、19世紀後半のアメリカで設立された、農業や家政学を教える高等教育機関や、家事育児の専門機関としての幼稚園の教育内容にも認められることを論証した。さらに、その教育内容がcaretaker（世話をする人）とbreadwinner（一家の稼ぎ手）との両立を目指す人間育成に根差していたことを明らかにした。

(3) 看護思想について

英米を代表する看護師フローレンス・ナイチンゲールとドロシア・リンド・ディックスの看護観を考察した後、南北戦争時のオルコットの従軍体験をもとにした『病院のスケッチ』をとおして、作家の看護思想を考察した。

女性運動や国家貢献などの大義ではなく、あくまで目の前にいる患者ひとりひとりに寄り添うオルコットの看護に対する姿勢は、子育てや介護をも含む多義的なnursingの実践にもなっていた。彼女の看護観は、孤児救済活動を目指したオルコット自身の教育観にはもちろんのこと、少数精鋭のエリート教育から公教育への移行を目指した19世紀中葉以降のアメリカ教育界の動向にも基本的に沿うものであった。

(4) ユートピア教育思想について

研究成果の(1)から(3)で考察したオルコットの教育観について、彼女に影響を与えた教育哲学者の父親ブロンソン・オルコットの教育観を参照しながらさらに考察した。まず、1840年代の共同体建設運動をもとにした共同体実験記「トランスセンデンタル・ワイルド・オーツ」(1873)からブロンソンの教育観、とくに彼のユートピア思想を分析し、次に、彼の理想とその限界を娘オルコットがどのように描いていたのかを上記作品内から明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

本岡 亜沙子、「“Moral Pap for the Young” —Alcott の〈Little Women 三部作〉における家事と教育」、『ヘンリー・ソロー研究論集』、査読有、第38号、日本ソロー学会、2012年1-10頁。

本岡 亜沙子、「孤児と個人のアメリカ、それからわたしたち：わたしの研究とマイ〈ホーム〉」、『広島経済大学研究論集』、査読無、第35号、2012年、81-84頁。

本岡 亜沙子、「Louisa May Alcott の *Little Women* における教育観」、『日本イギリス児童文学会論文誌 *Tinker Bell*』、査読有、第 56 号、2011 年、83-95 頁。

〔学会発表〕(計 4 件)

Asako MOTOOKA、「Orphans at Home: From “Motohka-Home to American Literature”」、The Summer Conversational Series and Teacher Institute 2013、2013 年 7 月 17 日、アメリカ、マサチューセッツ州、コンコード。

本岡 亜沙子、「“Truth Lies at the Bottom of a Well” —Louisa May Alcott の “Transcendental Wild Oats” における個人と共同体の相克—」、中・四国アメリカ文学会第 41 回大会、2012 年 6 月 9 日、広島大学（東広島キャンパス）。

Asako MOTOOKA、「Truth Lies at the Bottom of a Well”: The Ambiguous Boundaries between Individual and Community in Louisa May Alcott’s “Transcendental Wild Oats.”」、The 10th Annual Hawaii International Conference on Arts & Humanities、2012 年 1 月 12 日、アメリカハワイ州、ホノルル。

本岡 亜沙子、「Housekeeping と教育 —Louisa May Alcott の *Little Women* 三部作を中心に—」日本ソロー学会 2011 年度全国大会、2011 年 10 月 7 日、京都外国語大学。

〔図書〕(計 1 件)

本岡 亜沙子、「無名戦士に愛と敬意を—オルコット『病院のスケッチ』における原ヨーロッパ体験としての看護—」、『越境する女 —19 世紀アメリカ女性作家たちの挑戦』、開文社出版、2014 年、93-112 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

本岡 亜沙子 (MOTOOKA, Asako)
広島経済大学・経済学部・助教
研究者番号: 70582576

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし